

コード No.20-NPF-007

提出日：令和 3 年 5 月 13 日

令和 2 年度「無料健康診断会と結果報告会等の事業を進展するうえでの基盤整備事業」報告書

団体名 特定非営利活動法人北関東医療相談会

事務局長 長澤正隆

1. プログラムの目的

【目 的】

当会の活動は、オーバースティのフィリピン人男性の胃がんによる死亡から始まった。正規滞在という狭間にいる外国籍の健康（いのち）を守るため①無料健康診断と結果報告会 ②個人支援（医療費と薬代金、生活支援、食糧、出産の支援）③社会教育事業をしてきた。

1997 年 6 月に群馬県伊勢崎市にて第 1 回医療相談会を開催し、24 年間 61 回におよぶ無料健康診断会を行ってきた。以来群馬県、2010 年栃木県、2016 年東京都と茨城県、2017 年には埼玉県、2019 年千葉県、岩手県と活動を全国に広げてきた。通算 61 回、2,886 人の非正規滞在者という制度の狭間にいる外国籍住民の「いのち（健康）」を守ることを心がけ、無料健康診断と個別医療相談を通して、医療費と薬代金、生活支援、食糧の支援をしてきた。

2020 年度は新型コロナウイルスへの対応として無料健康診断会を 3 ヶ月単位で見直し、医療従事者を感染から守るため一定期間開催を断念した。

然しながら、2020 年 8 月に前橋市にて健康診断会を実施し、新型コロナ禍における収容を解かれ被仮放免者となり、そのために生活困窮者が増え、新たにマスク・石鹸・消毒液、体温計を仮放免者の家庭に支援した。

【主な活動内容と成果】

日程 地域

- 4 月
 - ・浦和地区における事務所調査
 - ・新型コロナウイルス感染予防の開始
 - ・大腸がん 仮放免者ペルー人の支援 在留特別許可申請
- 5 月
 - ・事務所決定（基盤整備事業）
336-0017 埼玉県さいたま市南区南浦和 2-39-2
第一大雄ビル 705 号室
 - ・新型コロナウイルス感染予防の発送作業と準備作業
 - ・庭野平和財団 非正規滞在外国籍生活困窮者への食料支援事業の申請
 - ・サレジオ基金支援開始
 - ・個別医療相談：すい臓がん オーバースティフィリピン女性の帰国支援

インド人 結核

- 6 月
 - ・事務所 引っ越し
 - ・新型コロナウイルス感染予防の発送作業
 - ・個別医療支援作業
 - ・フィリピン人男性 すい臓がん 帰国支援
 - ・マダカスガル大使館からの依頼で出産支援
 - ・新型コロナ「移民・難民緊急支援基金」への申請開始
- 7 月
 - ・新型コロナウイルス感染予防の発送作業
 - ・総会
 - ・国立高崎総合医療センターの依頼による出産支援
 - ・カトリック難民移住移動者支援申請開始
- 8 月
 - ・新型コロナウイルス感染予防の発送作業
 - ・第 61 回 健康診断会
 - ・前橋 無料健康診断会
 - ・恵アパート：ワンストップルーム開始
- 9 月
 - ・新型コロナウイルス感染予防の発送作業
 - ・群馬県 外国人未払医療費補填事業の申請
 - ・帰国日本人 肺がん支援
- 10 月
 - ・新型コロナウイルス感染予防の発送作業
 - ・フィリピン人肺がん末期 治療
- 11 月
 - ・新型コロナウイルス感染予防の発送作業
 - ・フィリピン人肺がん末期 在留資格申請取得
- 12 月
 - ・新型コロナウイルス感染予防の発送作業
 - ・ミャンマー人仮放免者 6 人目出産支援開始
 - ・年末困りごと相談 in 太田(反貧困ネットワーク群馬)
 - ・乳がん→骨転移 カメルーン女性 末期癌 在留特別許可申請
- R3 年
 - 1 月
 - ・新型コロナウイルス感染予防の発送作業
 - ・肝臓からの眼球の最近汚染 ベトナム人支援
 - ・乳がん→骨転移 カメルーン女性 末期癌 在留特別許可申請
ヴィザが届いた朝に亡くなった。
 - 2 月
 - ・新型コロナウイルス感染予防の発送作業
 - ・ミャンマー人仮放免者 6 人目出産
 - ・フィリピン人家族就学支援
茨城県古河市就学支援の制度化を行う
 - ・群馬県外国人未払補填事業制度復活決定
 - 3 月
 - ・新型コロナウイルス感染予防の発送作業
 - ・カンボジア人出産支援

2. 助成を受けた活動の報告（様子がわかる写真等があれば貼付してください）



新事務所 第一大雄ビル

5 月



大腸がん ペルー人



結核のインド人（左）



新事務所 コロナ対策



すい臓がんのフィリピン女性 (左)



茨城県 古河市 仮放免者親子



第61回 医療相談会 前橋会場



医療相談会 前橋学習会



ミャンマー人 6人目
入院助産制度活用



総会記念講演
洛生会宇都宮病院 荻



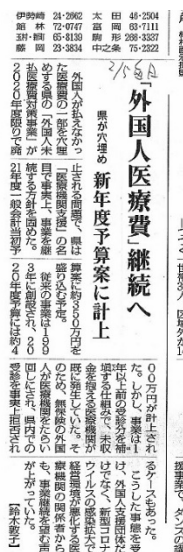
マイさん ガン患者のホームレス



難民申請者のパキスタン人家族



3. 【活動の成果】 (成果物などがありましたらご紹介ください)



群馬県 外国人医療費未払補填事業
制度復活申請提出



[illegible]

別添付

「死の直前「漢字勉強したい」カメルーン出身者は救えなかったのか」毎日新聞.pdf

【今後の課題】

- ① 事務局体制の充実化
 - ・事務所所在地の登記と2県以上にまたがる活動は内閣府への申請の確認
 - ・認定NPOを目指して
スタッフの強化とセールスフォースによる会員名簿管理の人員強化を行います。
 - ・より資金の充実化を目指して
治療費・薬基金の創設の検討をします。
- ② 支援態勢の連携
 - ・ますます貧困化する仮放免者への支援強化について
5月14日以降となった新入管法が採択された場合にはますます貧困化が加速すると思われる。
 - ・一団体で果たして賄えるのか連携団体と協議検討を行い反貧困ネットワークと北関東医療相談会の連携化を急ぎ実施し、2021年5月3日及び5日のGW大人食堂を開催した。この方法は今後の活動のあり方の基本となれば希望が持てる。
- ③ 新型コロナについて
 - ・2020年度は新型コロナウイルスの影響で無料の健康診断会は開催が1回のみでした。
今期は携帯を変えて健康相談会として、ライトな活動で対応ができると良いと考えています。
医師と看護師の聞き取りで病院の紹介を行い、同行支援を行うことによって重症化を防ぐことが可能となります。
 - ・新型コロナウイルス対策として、マスク・石鹸・アルコールジェル・体温計の配布が引き続き必要かと思えます。
 - ・仮放免者・難民申請者・他の非正規滞在者は急激な収入の減少によって生活が出来なくなってきました。せめて健康でいられるような支援をすることが大切ではないかと思えます。

【2020年度の活動のお礼】

2020年度の活動に、緊急援助と仮放免者・難民申請者・生活困窮した在留外国人の支援をいただきお礼を申し上げます。

特に、今期は事務所を新設して基盤となる事務所の整備を行う事ができました。その分各方面への医療支援が可能となりました。特に、仮放免者の在留資格が取ったが亡くなったカメルーン女性のこと、6人目の出産の支援が帝王切開でも可能となりました。理由は、地域の産婦人科の病院に全員の子どもの借金があったので病院から断れました。最後の一つが、借金を無くすることで出産を受け入れていただきました。

一つのいのちを救うことは、私たちの教皇フランシスコの願いでもあります。私たちの医療相談会は、いつのころから「野戦病院のようだ」と言われてきました。教皇の来日のさい東京でのミサの説教で教会は「野戦病院」と話されました。教会が掲げる「野戦病院」として時代に合わせて働き続けたいと思います。